

# 北 河 内 会 報 自 然 愛 好 会

2019年12月20日№.107

北河内自然愛好会発行

事務局：大東市野崎 3-7-7

西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

第 408 回例会「むろいけ園地・ナンバンギセル観察」四條畷市

2019年8月31日(土)

岡田三千代

前日はスコールのような大雨だったのでこの例会が中止になるのではと心配でした。朝には晴れ、四條畷市コミュニティバスにて逢阪に向かう。バスの中で図鑑を見てナンバンギセルの確認はしたものかどうかやらお姿拝見には至らなさそうなお話でした。

下車後バス停近くのタカサゴユリ（花の筒の外側に薄紫の筋がある）の観察から例会はいつものように始まった。アカネ、ヤブガラシを見て室池園地森の宝島の入口へ。ヤマボウシの木が何本か続く（ヤマボウシの赤茶色の実の味は少しヌルツとして甘かった）。道をいつものように会話を楽しみながらわいわい広場に出る。広場ではアスレチックのターザンロープを気持ち良く操り颯爽とぶら下がる稲原良三氏の姿があった。その奥の坂を上ろうとすると後ろから「そこはマムシがおるとこやで～気ィ付けや～！」と太田さんの言葉に西畑さんの蛇退治の様子を思い出す。雨がポツポツ降り始めたが鼻歌まじりで室池自然園へ向かう。キカラスウリのしぼんだ花、クマノミズキ、ヨウシュヤマゴボウ、キンミズヒキ、ガガイモ、ヌスビトハギ（薄ピンクの小さな花）、ヒヨドリジョウゴの赤い実、ミズタマソウ（西畑さんにルーペを借りて覗いて見たが、残念ながら花には水玉は付いてなかった。光輝く水玉草を見てみたいものだ）、ウリクサ（地べたを這う様に延びる薄紫色の小さな花）。倒木のトンネルをくぐるとキノコ（ホコリタケの仲間）などを見てアイアイランドに出る。イヌビワ、コブシの実を見て森の工作館にて昼食。食後新会員の男性の紹介があり 12 時 40 分出発する。

湿性花園に入りオオシオカラトンボが迎えてくれたり、モリアオガエル（の卵は無かったが）の水溜まりを過ぎ、ノリウツギ（ガクアジサイの白い花に似ている）、ヒヨドリバナ、ルリトラノオ、ヌマトラノオ、オレンジ色のユリ（ノカンゾウ？）、ハンゲショウ、ミソハギ、コガマ、サワヒヨドリ、イグチタケを見て中堤へ。その後休憩を挟み、権現川ハイキングコースを辿る。雨足はどんどん強くなった。

ハダカホウズキ、何故“はだか”????? パンツはいてないから！ハダカホウズキの実が赤い色なのは？ブラジャーしてるから！などと雨に濡れながら、口だけは賑やか。そして脚はへトへトで四條畷駅に着いて 16 時解散。

お目当てのナンバンギセルはアイアイランドに抜ける手前に以前はあったようです。ススキなどのイネ科の根元に寄生するということです。ススキの群落に西畑さん、田中さん、木村さんたちが分け入り探してくださったのですが、まだ時期が早かったようで、残念ながら見つかりませんでした。

下り道足がつりそうになった会員さん。ツムラ漢方薬 68（吊り止め）や塩飴、シップ薬など集まり難無く下山出来ました。皆さん！お出かけの時には漢方薬 68 や塩飴をお忘れなく。きっと役に立つことがあると思います！

昨年の台風の影響なのか数多くの倒木と住宅近く迄イノシシの暴れた形跡が見られ、荒れて来ている事が気になりました。小雨の中での散策になりましたが、気分転換でき楽しい一日でした。有難うございました。

◎観察した植物：ヤナギハナガサ、タカサゴユリ、オニドコロの花、ヤマボウシ、アレチヌスビトハギの花やキカラスウリの小さい実、ミズヒキ、キンミズヒキの花、ススキの群落地、ヌスビトハギ、ウリクサ、シロバナキツネノマゴ、キツネノマゴ、ヒヨドリバナ、ノリウツギ、オトギリソウの花、コブシの実、

午後はキセルアザミ、ノカンゾウ、ミズトラノオ、ヌマトラノオ、サワギキョウ、ミソハギの花やハンゲショウ、オオバギボウシ、チョウジソウ、イボタの実など、花盛りのガガイモの集団やオオイヌタデ、コケオトギリとフタバムグラを見る。オトコエシがきれいに咲いていた。ハシカグサの白い花や満開のクサギ、クサアジサイの花と立派に開いたシシウドの花、

上記以外に見た花の咲いていた植物：ヒヨドリジョウゴ、サワヒヨドリ、ミズタマソウ、ヒメキンミズヒキ、ギンミズヒキ、ダイコンソウ、ハナタデ、ヤブラン、センニンソウ、ナツフジ、ハダカホオズキ、イガホオズキ、アブラススキ、ヤブミョウガ実（田中光彦付記）

◎参加者：栗田泰子、稲原ヒサエ、稲原良三、遠藤エチ子、太田 理、岡田三千代、影 千恵子、木村雅行、田中光彦、塚原隆司、長島照文、中町荅子、中山千代美、奈良敏子、西畑敬一、波多野恵子（以上16名）

#### 第409回例会「飯盛山のアケボノシュスランを見に行こう」大東市 2019年10月6日 西畑敬一

午前10時 JR 野崎駅に集合、昨年台風のため中止になったリベンジ例会です。挨拶の後簡単なコース説明をして出発、参加者は14名です。駅前参道商店街を経て登り口の野崎観音にと向かう。観音境内から急な坂道を上り野崎城址跡に出る。ここで太田さんよりミニ歴史講座を聞く。再び歩を進め舗装された山道を進むと、難敵の通称七曲りと言われる急な坂道をふうふう言いながら登り辻の新池へ。途中階段の下でナデシコ科のフシグロが実をつけ始めていた。辻野新池への道すがらイチヤクソウや季節外れのモチツツジの花を鑑賞しながら辻の新池へと進み、池を右手に見ながら進む。今度は急峻な階段を鎖につかまりながら息を切らせて登ると目的のアケボノシュスランのある場所に出る。ここから少し下ったところがその地である。ここには4か所ほど自生地があるが2か所は今年の台風で生育が思わしくなく、2か所の観察となった。目的のアケボノシュスランが自生する谷は通称〇〇（場所の特定を避けるため）と呼ばれているところである。足元に注意しながら目的地に到着。残念ながらまだ十分な開花には至っておらず一部は開花し始めているものの蕾の状態のものが多く見られた。それでもメンバーは写真を撮ったり姿のかわいさを愛でたりして楽しんでいた。案内人としてはもう少し花が見られると思っていたが少し早かったようで残念だった。

アケボノシュスランの観察を終え昼食場所の池のほとりの東屋へと向かうが先約がいて、仕方なく野外活動センターのボート池のまわりで昼食を摂る。午後は野外活動センターを経て竜間の集落を通り老人施設の横を経て野崎不動尊から野崎観音への道を下る。途中、アレチウリの群落が道路わきの草むらに群落を作り多くの蔓やいがいがに包まれた果実や雌花を茂らせ繁茂していた。池の土手ではわずかにツリガネニンジンが薄紫の花を咲かせていた。オオバヤシャブシの茂る土手でメンバーの一人がアケボの実をみつけ悪戦苦闘の末、無事果実をゲット。また、農園のフェンスに繁茂するガガイモの果実を見つけひと騒ぎ。写真を撮るもの、果実を採集するもの、中でも、田中さんは教材に使うのか多くの実を採集されていた。集落の手前では田中さんに北河内では交野と竜間でしか確認されていないというヤマジノホトトギスの自生地を案内してもらおう。老人施設の脇を通り抜け一路解散場所に向かう。配水場脇の竹林のイチヤクソウの無事を確認しながら、以前はここにもキンランがあったなあと話しながら堂山古墳の手前で右折して野崎不動尊で小休止。ここでメンバーが2人いないことに気が付き心配していると後続のメンバーから連絡が入り一安心。（後続付記：下り道のあちらこちらの植物に気を取られ、い

つの間にか最後尾とも離れてしまい、おまけに道の二股を間違えて堂山古墳の方に下りて行った。遠回りにはなったが、取りあえず下には下りて行っていたので…) 解散地点で合流、本日の解散となる。お疲れ様でした。

◎観察した主な植物：どんぐりの仲間（クヌギ、アベマキ、アラカシ、コナラ、シラカシ）ヤブミョウガ、スズメウリ、フシグロ、モチツツジ、タイワンコマツナギ、シシウド、ヤクシソウ、ナガエミクリ、ハナタデ、オオイヌタデ、イヌタデ、ツユクサ、イチヤクソウ、ノブドウ、ススキ、アオツツラフジ、オニドコロ、カエドコロ、ヤマノイモ、ツリガネニンジン、アケビ、オオバヤシャブシ、ガガイモ、ソクズ、ヤマアイ、トキリマメ、ヤブマメ、シャガ、ママコノシリヌグイ、ミゾソバ、ナンテンハギ、ツクシハギ？コウヤボウキ、ヤマジノホトトギス、ゴヨウアケビ、イヌコウジュ、その他

◎参加者：栗田泰子、遠藤エチ子、太田 理、狩野登之助、鈴木永子、田中光彦、中町荅子、中山千代美、西畑敬一、山田志麻代、富田茂美、石川信子、岩本節子、塚原隆司（以上 14 名）

#### 第 410 回例会「キノコ観察会」枚方市穂谷

2019 年 11 月 7 日（木）

太田 理

穂谷バス停午前 10 時、参加者は 15 名、今日の講師は下野義人先生です。「キノコ観察会はこの頃参加者が少なかったのですが、今日はたくさん来てくれました。」と田中さん。私も久しぶりの参加です。穂谷の集落をすぐに抜けて山道に入りました。早速タツナミソウや「この紫色の花はアキノタムラソウかな？」ツリガネニンジンがたくさんたくさん咲いていたり、これはヤマハッカ？と植物観察をしていたら、前の人たちと離れてしまいました。やはり今日はキノコオンリー?!もちろんキノコ観察会です。

細いそうめんのような黄色いのや白いのが見つかりました（ナギナタタケ・カレエダタケモドキ）。直径 20cm 超の大きなキノコを見つけた人がいました。みんなからわあ〜と驚きの声が上がりました。ちょっと盛りを過ぎていたようで、臭かった（ムレオオイチョウタケ）。皆さん採ったキノコを先生に見てもらい、これ何ですか？と尋ねます。先生曰く「匂いを嗅いでみて。桜餅の匂いがするでしょう。」（コカブイヌシメジ）また、先生に聞くと「ちょっと嚙ってみ。」初めは何も感じませんでした。だんだんにピリッときて、まさにワサビの辛さでした（ワサビタケ）。そしてまた「わあっ、苦い！」（ニガクリタケ）。ニガクリタケは有毒です。え〜っ、毒なのに口に入れていいの?!（後で先生に聞きました〜参照）木にくっついている白いもの。これもキノコ?!と見ていると、先生「それ採ってみて、裏を見ると…」小さな剥片を採っておいて、後で同定の時見た名前にガッテン！（スエヒロタケ）。なるほど裏返してみるとひだが扇の要のように末広がりになっていました。自然観察は五感（見る、聞く、触る、匂う、味わう）が大事とよく言われますが、キノコの観察会は「聞く」だけが無いだけで、まさか“四感”を使うとは?!

枚方市野外活動センターで同定が始まりました。先生とて「分からんな〜」「これ図鑑に載ってないで。」なども聞こえてきます。目を引いたのはハチノスタケ。オレンジ色のきれいなキノコですが、裏を見ると何と蜂の巣状の細かい網目模様が美しい。“管孔”という言葉が教えてもらいましたが、どのようにしてそんな形が作れるのか。そのキノコにとってその形状が必要なのでしょうか。まさに“不思議発見!”です。まさしく“自然の工夫”というより生物の進化の過程なのでしょう。

“四感”以外にまだありました。「切る」です。切って見て「これコツブタケ。」そう言えば「柄を折ってみて。」と言われて折ると赤い汁が出てきます（チシオタケ）。ひだの間から黄色い汁（キチチタケ）など。

昼食を食べて、午後は清水谷を下りました。さあ〜、午後からがまたすごかった。先ほど同定した以外のキノコがぞくぞく見つかりました。そのたびにまたまたしばし立ち止まり、また、先生から「こ

れ、皆さんにクイズ。」と午前中に学習したものの“おさらいクイズ”が出されます。みんなは“四感十一感”を働かせて一生懸命を当てようとします。そんなこなを繰り返していると、会の担当者や地元の人には日暮れも近くなっているのに「止まらないで！」とヤキモキ。参加者の側は先生の話も面白いし、もっと知りたいし...と。そんな光景を傍観者的に見ている私は“けっこう面白い”と無責任な思いになっていました。ゴメンナサイ。

先生に聞いてみました。「毒のあるのをちょっとでも口にするのはどうなんですか？」先生「もちろん何でも食べるのはだめです。でも毒が有るか無いか、例えばクリタケとニガクリタケの違いは見た目ではなかなか分からず、苦いかどうかで判断することもあります。」カエンタケなど触るのもだめなのもあります。むやみやたらに素人がするのはなく、専門の研究者の言葉に従って経験するということなのでしょうね。

無事 4 時半頃津田駅に到着。解散の挨拶が西畑会長からあり、散会しました。下野先生ありがとうございました。そして皆さまお疲れ様でした。今日一日楽しかったです。

◎参加者：講師:下野義人先生、栗田泰子、安藤香子、稲原ヒサエ、岩井幸恵、太田理、影千恵子、木村雅行、鈴木永子、田中光彦、長島照文、中野潤子、西畑敬一、川崎節子、辻正文、前田初雄（以上 15 名）

◎当日観察したキノコの一覧（科のアイウエオ順に配列 \*は枚方市初記録、\*\*は北河内初記録）

科名	種名	科名	種名
アセタケ科	チャヒラタケ *	ツキヨタケ科	エセオリミキ
イグチ科	アワタケ属 *	ツキヨタケ科	ドクカレバタケ **
イッポンシメジ科	イッポンシメジ属 *	ツキヨタケ科	モリノカレバタケの仲間
イッポンシメジ科	クサウラベニタケ *	テングタケ科	ツルタケダマシ *
イッポンシメジ科	コキイロウラベニタケ *	ナヨタケ科	イヌセンボンタケ
ウラベニガサ科	ウラベニガサ	ナヨタケ科	ヒトヨタケ属
ウラベニガサ科	ウラベニガサの仲間	ナヨタケ科	ムジナタケ
ウロコタケ科	チャウロコタケ *	ニセシヨウロ科	コツブタケ
カノシタ科	シロカノシタ *	ヌメリイグチ科	ヌメリイグチ
カレエダタケ科	カレエダタケ *	ヌメリガサ科	アカヤマタケ
カレエダタケ科	カレエダタケモドキ	ヌメリガサ科	トガリツキミタケ **
キシメジ科	カキシメジ近縁種 *	ヌメリガサ科	ヒメダイダイタケ近縁
キシメジ科	コカブイヌシメジ *	ヌメリガサ科	ミズゴケノハナ
キシメジ科	ムラサキシメジ	ノボリリュウ科	ナガエノチャワントケ
キシメジ科	ムレオオイチョウタケ **	ハラタケ科	イロガワリホコリタケ *
クヌギタケ科	サクラタケ(広義)	ハラタケ科	キホコリタケ
クヌギタケ科	チシオタケ	ハラタケ科	クロホコリタケ?
クヌギタケ科	ワサビタケ	ハラタケ科	コガネタケ *
クロサイワイタケ科	マメザヤタケ *	ハラタケ科	タヌキノチャブクロ *
コウヤクタケ科	ケシワウロコタケ *	ハラタケ科	ナカグロモリノカサ
シメジ科	スミゾメシメジ *	ハラタケ科	ホコリタケ(キツネノチャブクロ)
シメジ科	ハタケシメジ	ヒドナンギウム科	キツネタケ ?
シロソウメンタケ科	ナギナタタケ **	ヒナノヒガサ科	ヒナノヒガサ *
シワタケ科	ヤケイロタケ *	ヒラタケ科	ヒラタケ
スエヒロタケ科	スエヒロタケ	ピロネマキン科	ヒイロチャワントケ *

タバコウロコタケ科	カワウソタケ	フウセンタケ科	ウスムラサキフウセンタケ近縁 **
タバコウロコタケ科	キヌハダタケモドキ **	フウセンタケ科	カワムラフウセンタケ近縁種 *
タバコウロコタケ科	ネンドタケ *	フウセンタケ科	ニセアブラシメジ *
タマチョレイタケ科	ウズラタケ	フウセンタケ科	フウセンタケの仲間 *
タマチョレイタケ科	オオミノコフキタケ	フウセンタケ科	マルミノフウセンタケ *
タマチョレイタケ科	オシロイタケ近縁 *	フウセンタケ科	ムラサキアブラシメジモドキ *
タマチョレイタケ科	カイガラタケ	フサタケ科	サガリハリタケ
タマチョレイタケ科	カワラタケ	ベニタケ科	キチチタケ
タマチョレイタケ科	クジラタケ	ベニタケ科	クロハツ近縁
タマチョレイタケ科	シハイタケ *	ベニタケ科	シロハツ
タマチョレイタケ科	センベイタケ	ベニタケ科	チシオハツ *
タマチョレイタケ科	ニクウスバタケ	ベニタケ科	チョウジチチタケ *
タマチョレイタケ科	ハチノスタケ	ベニタケ科	ドクベニタケ(広義) *
タマチョレイタケ科	ヒロタケ	ベニタケ科	ニオイワチチタケ
タマチョレイタケ科	ベッコウタケ *	マクカワタケ科	シックイタケ **
タマチョレイタケ科	ヤキフタケ *	モエギタケ科	クリタケ *
タマバリタケ科	ツエタケの仲間 *	モエギタケ科	サケツバタケ近縁種
タマバリタケ科	ヌメリツバタケ	モエギタケ科	スギタケ属 *
ツガサルノコシカケ科	アオゾメタケ *	モエギタケ科	チャモエギタケ **
ツガサルノコシカケ科	カイメンタケ **	モエギタケ科	ツチナメコ *
ツガサルノコシカケ科	ホウロクタケ	モエギタケ科	ニガクリタケ
ツキヨタケ科	アカアザタケ **	モエギタケ科	モエギタケ *

<北河内自然愛好会のメーリングリストの皆様へ> 管理者：稲原良三

・現在利用していますMLは以下のように終了となります。【重要】必ずお読みください

■freeml byGMO サービス終了のお知らせ■

2019年12月2日(月)12:00をもちまして、サービスの提供を終了させていただきます。

・そのため当会のコミュニケーションの方法について検討結果以下のように変更を前提に試験運用させていただきます。

「LINE WORKS」；ワークモバイル ジャパン株式会社

ホームページ (<https://line.worksmobile.com/jp/>)

無料のフリープランです。セキュリティと実績からと見やすく特に管理面で特別な技術がいないなどのためです。

・具体的に招待メールを送りますので説明内容をご覧戴き対応をお願いします。

対応概要

- ① 従来のメールでの情報のやりとりを 「トーク」形式でのやりとりに変わります。
- ② 新規にラインワークスのID、パスワードを設定し登録する方法とRINE利用者は利用中のRINE IDで登録する方法が有ります。
- ③ 登録が終われば トーク画面から中身を確認しながら内容を理解できますから使い慣れをお願いします。
- ④ 利用の手引きや質問、サービス通知なども有りますので利用時間帯の制限が有りますが「トーク」形式になじんでください。宜しくをお願いします。

⑤ 従来 freeml 登録者 23 名には招待メールが 11/5、未登録者には会報等で参加の呼びかけを行い希望者に個別招待メールを都度管理者から送ります。

・ 11/20 迄に試験運用を終えられた方から本格運用をイメージしています。

11 月中は通知連絡は freeml by GMO と併用して情報発信をお願いします。 管理者：稲原

第 2 回目の LINE WORKS の案内をいたします。

11 月 5 日に招待状を 23 名にお送りしましたが参加いただいたのは 5 名でした。再度招待状メールを送らせていただきます。

前回案内不足の情報を記載します。

- ① フィーチャーフォン(ガラケー)は適用できません。PC, スマホ、iPad のみに適用  
無料のコミュニケーションツールでフィーチャーフォンに適用出来る物が見つかりません。
- ② 招待メールが届きましたら；参加をクリックください。
- ③ 認証番号（数字 6 桁）が届きます。
- ④ LineWorks のアプリをダウンロードし、インストールしてください。インストールに失敗の場合、動作環境を確認してください。
- ⑤ インストール完了後 LINEWORKS アプリを起動して管理者からのアカウントとパスワードでログインします。
- ⑥ 会話アイコンをクリック、タップしてトークを開くとトークルーム一覧が開き北河内自然愛好会があればコミュニケーション出来ます。
- ⑦ 個人的なコミュニケーションはトークルームの右上の V からメンバーを開くとルームに参加個人が表示されトーク会話アイコンからチャット形式でトークが出来ます。  
失敗は勉強ですから慣れてくださいますようお願いいたします。 管理者：稲原

《会員交流コーナー》\*\*\*\*\*

§§<カスミサンショウウオ展示>当地田原で 8 月 24 日「旧暦七夕まつり」が催され、春の「まつり in 田原」に続いて枚方高校生物飼育部がカスミサンショウウオや日本在来の希少種の生き物展示をしてくれました。また、金魚すくいならぬ「エビすくい」も…。地域の人々の興味や関心が広がればよいと思います。また、同部はカスミサンショウウオの飼育や繁殖活動も行って、田原への支援もしてくれています。朝日新聞でも大きく報道されました（2019.6.25）。（太田 理・8/30）

§§<チョウ？ガ？>9 月 1 日に田原の里山で出くわした。その日は田原の里山の草刈り日、ビオトープの田原の里山を刈っていましたが、休憩中にふと見上げると大きな蝶？蛾？止まっているところが斜めであまりよく写せなかったのですが、後で調べるとシンジュサン（神樹蚕）らしい。クスサンやウスタビガの繭はよく見えますが…。（太田・9/20）

§§<アトジロサシガメ>星の里いわふね（スポレク）の天野川左岸の石垣に見たこともないサシガメの仲間らしいムシがいて写しました。向井さんに調べてもらって、中国から入りこんで、2016 年に四條畷で見つかったもので、アトジロサシガメと名付けられたカメムシの仲間とわかりました。他のムシに口吻を差し込んで体液を吸って生きているとのこと。掴むと刺されます。（平 研・9/15）

§§<ナンバンギセル>先日の例会、ナンバンギセルが目当てでしたが、残念ながら時期尚早。今日行ってみると咲いていました。一群のススキの外側の株元を一生懸命探して、未だ無い?!とよく見ると道沿いの株の真ん中に見つけました。そこで一句。”思ひ草 尾花一群ら 密やかに”思ひ草：ナンバンギセルの古名、尾花：ススキの別称。テレビ・プレバトの夏井いつき先生はすぐに”季重なり”と指摘されるでしょうが、ススキに寄生する「南蛮煙管」ですから仕方ありませんよね?!（太田・9/17）

§§<モズの高鳴き>「秋きぬと 目にはさやかに 見えねども モズの高鳴き 青空に響く」

「モズの高なき 75 日」といわれています。初めてモズが高鳴きして 75 日したら霜が降りるということです。秋告げ鳥であると同時に、冬の到来期日を予告する鳥でもあるのですね。（平・9/22）

§§<ナキウサギ写真展>くずはアートギャラリーで行われた写真展会場には 20 点の作品が展示され、いずれも時間をかけてシャッターチャンスを狙ったものばかりでした。作品の撮影は出来ませんでした。◎日なたぼっこで昼寝をしている所◎大好物のシラタマノキの白い花を口に入れた瞬間◎食草をくわえて、ジャンプした所◎雄大な大自然の中、その自然に溶け込むように岩場に座っている所等々、愛らしいナキウサギを観ることが出来ました。2012 年に環境省のレッドリストの準絶滅危惧種になっているにも拘わらず、国の天然記念物への指定に行政は消極的。指定すると、生息地での開発（道路、スキー場）が難しくなることも一因なのでしょう。今回は、全国の方に現状を知ってもらい、一刻も早く、天然記念物指定を願っての大阪での写真展でした。（稲原ヒサエ・9/26）

§§写真展を見に行きました。本会会員の栗田さんたちがナキウサギの保護を訴え続けておられる。ナキウサギの愛らしい写真を見ながらほっこりさせてもらい、北海道の山地の岩場で懸命に生き続けている小さな天使に“がんばれ！”と思いました。（太田・9/26）

§§<よろしく>入院していた家内は、2 か月の治療、リハビリにも、老衰のため、改善の見込みが立たず、昨日、退院と同時に老人ホーム（青山）に入らせてもらいました。私、93 歳にして独居老人になってしまいました。時間にゆとりができましたので、今後は私の体力で参加できる催しには参加させてもらいたいと思います。よろしく願いいたします。「今までのお気遣いありがとうございました」。

（平・10/10）

§§平さま お疲れさまでした。無理をなさらず、ご一緒できる日を楽しみにしています。（西畑・10/10）

§§<スズメウリ>自分の時間が自由に取れるようになって今日、傍示経由でくろんど園地までバイクを飛ばして久しぶりに鳥を写そうかと出かけました。だが、鳥はスズメらしきものが 2~3 羽、飛んだだけ、写したのは初めて見た大きなハナバチらしきものとスズメウリ。スガスガしい秋の山でした。

（平・10/24）

§§<岡田さん水彩画>岡田三千代さんから連絡がありました。何と 9 月の一水会展会員佳作賞に続いて（それも何百人の中からの受賞で凄いのですが）、第 6 回日展（日本美術展）に入選したとのこと。日展といえば日本美術界における最高峰。日展のホームページで見てください。「第 6 回日展・洋画部門」です。一水会展「会員佳作賞」は会員の中でもなかなか取れるものではないようで、関西では数少ない受賞のようです。日展の受賞と合わせて岡田三千代さんのこれからの発展を期待しましょう!!

（太田・10/25）

§§<一水会展>天王寺美術館地下展示会室で催されている一水会展に行ってきた。岡田三千代さんの作品「そよ吹く」が会員佳作賞。使い古したミシンの後ろのカーテンがそよ吹く風に微かに揺れて、その襞がとても繊細に描かれています。ミシンはどんな人が踏んでいるのでしょうか。（太田・11/21）

§§今日、一水会展の岡田さんの作品を見に行ってきました。素晴らしいものだったので帰りに作品のハガキを買おうと思ったけど売り切れていました。午前 10 時 20 分頃のことです。（田中・11/23）

§§<教えて>城北小学校でスタッフが見つけた植物ですが、種名が分かれば教えて下さい。標本はまだ受け取っていませんが、29 日に持っていきます。2019 年 11 月 22 日城北小学校・第 2 多目的室の運動場側の花壇（北川ちえこ・11/23）

§§<教えて一回答>写真を帰化植物の植村さんに送り同定を依頼したところ、次のような返事がきました。「これは、ハシカグサモドキ *Richardia scabra* L.かブラジルハシカグサモドキ *Richardia brasiliensis* Gomez のどちらかです。同定には、完熟種子が必要です。」これらはアカネ科のハシカグサモドキ属です。日本維管束植物目録 180 ページに載っています。完熟種子は入手可能でしょうか。できれば種子とともに標本が欲しいです。（田中 11/24・）

§§<Re:教えて>どうも有難うございました。種子はもらった標本の新聞紙に落ちていました。たぶん、ハシカグサモドキだと思いますが、29日に同定をお願い致します。ついでに先に見つけたアオイ科の植物を見て頂けないでしょうか。城東小学校です。葉幅は5センチくらいで小さいです。全身とても毛が多いです。種子はすでに落ちたのか分かりませんでした。これも29日に持っていきますが。(北川・11/25)

§§<教えて>帝塚山古墳の入口でとった植物ですが、種名が分かるでしょうか。よろしくお願ひ致します。(北川・11/28)

§§<教えて-回答>ボタンクサギ? (山田良之・11/29)

§§<教えて-回答>城北小学校の不明種は種子を見せていただいたら、分果の腹面を果皮が包み裸出する部分は線形となっていたのでブラジルハシカグサモドキではなくて *Richardia scabra* L. ハシカグサモドキ 熱帯アメリカ原産 の方だと思います。(木村雅行・11/29)

§§<教えて>木村さん、早々のお返事有難うございました。で、またまた不名植物の画像が送られてきました。ハウキギクに似ていますがその近縁でしょうか。茎、葉の縁に開出した長毛があります。この画像は生徒が撮ったものですがスタッフは見えていません。ですので標本もありません。9月11日九条小学校 (北川・11/30)

◎異動：(敬称略)

入会：10/6 岩本節子(大東市)

退会：10/31 今田順子(東大阪市)、西川節子(岸和田市) (お2人：自然退会)

◎編集後記：2019年(平成31年・令和元年)、この1年は皆さまにとってどのような年でしたか。ラグビーワールドカップに湧きました。流行語大賞に「ONE TEAM」。そして小泉環境大臣がスピーチしたCOP21での日本の環境問題の貧弱さ。来たるべき年が良い年でありますチュー(子ね)に。編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。(太田)

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114  
◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507  
◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000円 郵便振替 00970-4-103735

目次

第408回例会「むろいけ園地・ナンバンギセル観察」  
岡田三千代-----1  
第409回例会「飯盛山のアケボノシュスランを見に行こう」西畑敬一-----2  
第410回例会「キノコ観察会」太田理-----3  
<北河内自然愛好会のメーリングリストの皆様へ>  
管理者：稲原良三-----5  
会員交流コーナー-----6  
異動、編集後記-----8  
カラーグラビア版-----別刷  
例会案内-----別刷

岡田三千代さん画 (作品はがきより)  
(カラーグラビア版でご覧ください)



第81回一水会展 そよ吹く 会員佳作賞 岡田三千代